源流の里

木祖村

景観計画

Kiso village

Landscape planning

2013

はじめに

このたび木祖村ではじめてとなる「源流の里　木祖村景観計画」を策定いたしました。村は第四次総合計画において木曽川の源流の里としての自然と環境を守り、歴史や文化を大切にし、産業を育み、若者が喜んで住めるむらづくりを進め、都市とは異なる「源流の里」にふさわしい景観、「木曽の祖としての木祖村」らしさを大切にした景観づくりに取り組み、あわせて地域住民の景観形成に対する意識の高揚を図ることとしています。平成23年度～平成24年度の2か年にわたり、木祖村観光開発審議会の委員の皆様を中心に、景観アドバイザーの山田健一郎先生や信州大学工学部の寺内研究室の皆さんに加わっていただき景観計画策定にご協力していただきました。木祖村の持つ自然や資源を次の世代に引き継ぎ、くらしと観光・産業とのバランスのとれた景観づくりや、歴史的、文化的資源を活かした景観形成の実現を目指して、美しい源流の里づくりを推進してまいりましょう。景観計画策定にご協力いただいた、すべての皆さんに感謝を申し上げます。

平成25年3月

木祖村長　栗屋 徳也

もくじ Contents

源流の里　木祖村景観計画

序

05 ／ 第1章　景観計画とはなにか
第1節　景観計画策定の背景
第2節　景観計画の概要

06 ／ 第2章　景観計画の位置づけ

07 ／ 第3章　景観づくりを推進するために

第1部　木祖村の景観特性と現状

09 ／ 第1章　木祖村の景観構造およびその変遷
・1940年代（戦後改革期）
・1970年代（人口減少転換期）
・2012年（現在）

11 ／ 第2章　木祖村の景観を捉えるテーマ
・くらし
・産業
・歴史と文化

13 ／ 第3章　木祖村の地区ごとの景観特性
・薮原地区
・小木曽地区
・菅地区

15 ／ 第4章　木祖村の景観に関する問題点と課題
・空き家
・旧街道沿いの建築群と空地
・水路・河川の整備
・遊休耕作地
・沿道景観
・屋外広告物

第2部　木祖村の景観づくり

17 ／ 第1章　景観計画区域

18 ／ 第2章　景観づくりの基本方針
第1節　景観計画がめざす将来像
第2節　基本方針のための木祖村キーワード
第3節　5つの基本方針
第4節　景観づくりのための要素
第5節　地区ごとの景観推進イメージ
・薮原地区
・小木曽地区
・菅地区

35 ／ 第3章　景観形成の取り組み体制

資料編

37 ／ 1.景観デザインのアイディア集（作成:信州大学寺内研究室）

（1）イベント活動編
木祖村の四季フォトコン　木祖村カラー　にわじまん　テッチュウギャラリー
アーティストbanパーク　木祖村カルタ

（2）生活産業編
デザインゴミブクロ　空き家の使い方　KISOMURA BIRTH GIFT　さくらやまーけっと

（3）屋外デザイン編
木祖村産木製擁壁　みんなの手すり　石垣ベンチ　湧水あんどん　駅前ハナモモ化計画
ひとつながりの軒下　かみしばい看板　板倉を東屋に

47 ／ 2.景観計画策定の経過

49 ／ 3.景観計画策定専門部会、ヒアリング協力者、写真提供協力者など

第１章
景観計画とはなにか

第１節　景観計画策定の背景

木祖村は明治22年、藪原村、小木曽村、菅村が合併し、現在の木祖村となりました。村全体が木曽川源流の里として当時から現在に至るまで、豊かな自然とともに生活が営まれています。村の先人たちは、厳しくも豊かな自然や地域資源に対し、知恵と工夫と努力を重ね、この村を発展させてきました。木祖村となってから、日清戦争、日露戦争、太平洋戦争といった大きな戦争と、その後の高度成長期があり、この間に鉄道、国道、県道、村道などの交通や、電力、ガスなどの社会インフラ整備が進みました。大きな時代の流れとともに、人々の生活は変化して、木祖村の景観も大きく変化してきています。

現在、木祖村に住む私達の使命は、木曽川源流の里を育むことはもちろんのこと、今まで以上に村民一人ひとりが木祖村を誇りに思い、木祖村で生きる意味を見いだせる村にしていくこと、そして若者が喜んで住める美しい村にしていくことです。

平成16年6月に我が国で初めての景観に関する総合的な法律である景観法[※1]が制定されました。これまで、木祖村では、様々な場所で、多くの村民が美しい村づくりを目指し、景観づくりに対する活動が活発に行われています。こうした活動が過去から現在、そして将来へとつながっていくことが重要です。そこで、木祖村は「木祖村第4次総合計画」のもと、積極的に景観行政に取り組んでいくために、「源流の里 木祖村景観計画」を策定します。

第2節　景観計画の概要

「源流の里　木祖村景観計画」（以下、「景観計画」といいます。）は、木曽川源流の里にふさわしい自然や文化、歴史があふれる景観を守り育み、次の世代に豊かな環境を引き継ぎ、活力のある村を目指すための計画であり、景観法第8条の「良好な景観の形成に関する計画」に位置づけられます。

景観計画では、木祖村の景観構造と土地利用に即して景観の特性や課題を明らかにし、良好な景観の形成を推進するための基本方針や、重点的に推進する整備項目などを定めています。

また、村民、事業者、滞在者といった村に関わるひとびと全てが、木祖村の良好な景観形成の主体であることを認識し、各々の協働による良好な景観の形成を実現することができるよう、取り組み体制についても定めています。

地域住民による沿道花壇作り

※1 景観法とは、2005年に施行された、日本の都市、農山漁村等における良好な景観の形成を促進するための法律

第2章 景観計画の位置づけ

景観計画は、木祖村観光開発審議会における『源流の里　木祖村』景観形成計画策定審議、専門調査員および公募村民による調査（平成23年度～平成24年度）結果などを踏まえ、木曽川の源流の里としてふさわしい、美しく活力ある木祖村を次世代に引き継ぐために策定するものです。

景観計画の内容は、木祖村第4次総合計画（2008～2017）、木祖村後期基本計画（2013～2017）に適合させるとともに、総合計画の基本理念“元気いっぱい「源流の里」木祖村”、施策の5大綱となる①若者が喜んで住める村②自然とともに豊かに暮らす村③都市との交流による活力ある村④みんなの笑顔あふれる村⑤協働による自立した村を基本理念として、これらを反映しています。

木祖村第4次総合計画（2008～2017）

基本理念:元気いっぱい「源流の里」木祖村

■施策の大綱

①若者が喜んで住める村　②自然とともに豊かに暮らす村
③都市との交流による活力ある村　④みんなの笑顔あふれる村
⑤協働による自立した村

木祖村後期基本計画
（2013～2017）

関連調査

■木祖村観光開発審議会答申

・村民が美しい村、癒される村として誇れる計画づくり
・近隣の自治体や木曽地域全体との調和が図れる計画づくり
・村民の意識、木祖村に訪れる観光客等の意識、自然、里山、田園風景、歴史文化、環境、動植物の生態等の基本調査の実施
・景観形成ワーキンググループ設置
・木祖村全体が『源流の里』として統一感が持てる計画づくり
・『源流の里』景観形成により新たな産業が育成される仕組みづくり
・継続性ある計画づくり
・地域資源が生かされるような計画づくり
・木祖村周囲の景観が生かされる計画づくり
・定住人口が増加する要因となる計画づくり

■木祖村観光開発審議会
景観計画策定専門部会開催

・部会でのワークショップ開催
　第1部会　居住空間から景観を考えよう
　第2部会　産業と景観
　第3部会　歴史文化を生かす景観づくり
・住民アンケート調査
・村内踏査の実施

源流の里　木祖村
景観計画

木祖村景観形成推進委員会による実践プラン作成

10年後、20年後、30年後を見据えた
美しい源流の里づくり

第3章　景観づくりを推進するために

本書は、「第1部　木祖村の景観特性と現状」で、木祖村の景観構造や土地利用の変遷を踏まえて、木祖村の景観を捉えるテーマ、木祖村全体および地区ごとの景観特性を掴み、景観に関する問題点と課題を洗い出しています。続く、「第2部　木祖村の景観づくり」で、良好な景観の形成を推進するために、景観区域を定め、基本方針を定めています。さらに、景観づくりのための要素と地区ごとの景観推進イメージを示し、景観形成の取り組み体制を提示しています。

以上の木祖村景観計画を実践するために、景観形成事業の推進、住民の景観意識の高揚を進めていきます。こうした景観形成推進の流れは以下のようになります。

STEP1　調査と分析

●地区ごとの歴史的背景と景観特性の調査
・藪原地区・小木曽地区・菅地区
景観計画第1部第1章＆第3章

●木祖村全体の景観を捉えるテーマ
・くらし・産業・歴史と文化
景観計画第1部第2章

●木祖村全体の景観に関する問題点と課題
・空き家・旧街道沿いの建築群と空地・水路・河川の整備
・遊休耕作地・沿道景観・屋外広告物
景観計画第1部第4章

STEP2　方針とイメージづくり

●5つの基本方針
1.住民のくらしを大切にした活気あふれる景観づくり
2.村の資源を生かしたおもてなしの景観づくり
3.木曽川源流の水を活かした景観づくり
4.美しい里山と四季の花咲く景観づくり
5.歴史と街道文化の薫り高く生活の風景が感じられる景観づくり
景観計画第2部第2章

●景観づくりのための要素
景観計画第2部第2章第4節

●地区ごとの景観推進イメージ
景観計画第2部第2章第5節

●景観形成の取り組み体制

STEP3　実践と展開

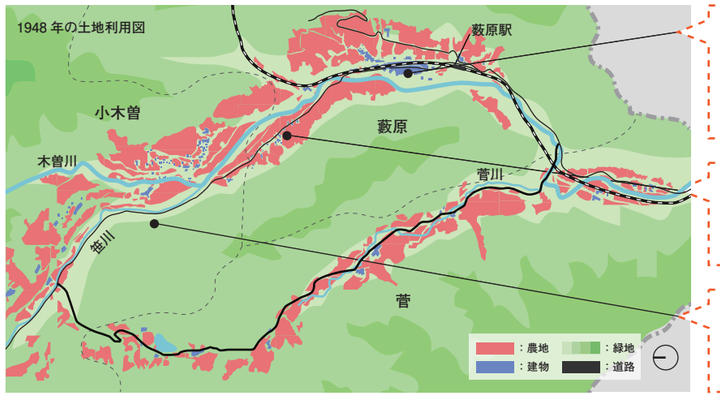
景観計画を実践するための課題
●景観計画に基づく木祖村景観形成推進委員会の設置
・景観に関する窓口機能の設置・公共施設の景観形成先導的役割の強化
・木祖村に関わる関係機関への働きかけ・景観法に基づく景観条例策定に向けた検討
●村民の景観に対する意識の高揚
・協働に基づく景観づくり団体育成・村民参加型の景観育成
●景観デザインのためのアイディア（参考）
景観計画資料編1.

第１部
木祖村の景観特性と現状

第１章　木祖村の景観構造およびその変遷

木祖村の景観は時代の移り変わりとともに変化してきました。ここでは、戦後から現在までの景観の長期的な変化を把握し、木祖村の景観構造を明らかにします。

1940年代:戦後改革期　戦後の社会の変革を経験しながら、厳しい自然環境の中、農業や林業を中心に村の産業が興りました

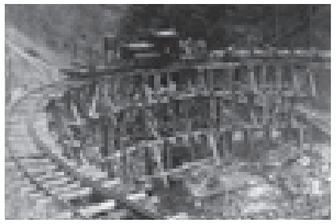


軒を連ねた宿場の町並みが残っています。しかし、お六櫛ブームの好景気とともに建物が更新され町並みが変容していきました

食糧不足を補うため、村内全域にわたって広大な農地がひろがりました

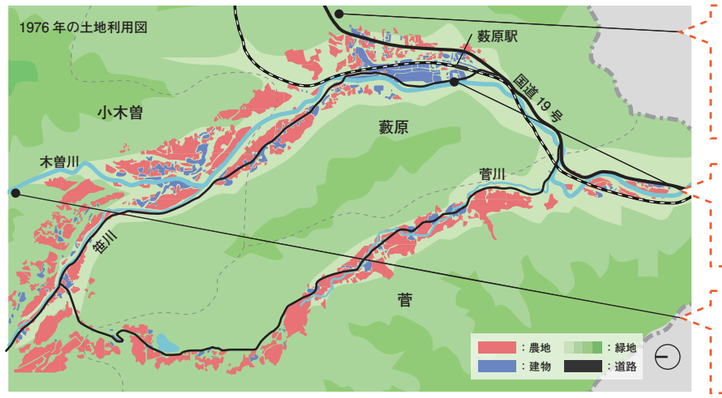
小木曽では森林鉄道によって材木の搬出が盛んに行われました

薮原下町の様子（昭和35年頃）


材木を搬出する森林鉄道（昭和24年）

薮原の農村風景（昭和40年頃）

1970年代:人口減少転換期　高度成長期をむかえ、木祖村でも社会基盤をはじめ様々な開発が起こりましたが、都市部への人口流出により村の人口が減り始めました



新鳥居トンネルの開通により村への交通の利便性が向上しました

村民センターや郷土館などの公共施設が建ち始め、沿道景観は大きく変わりました

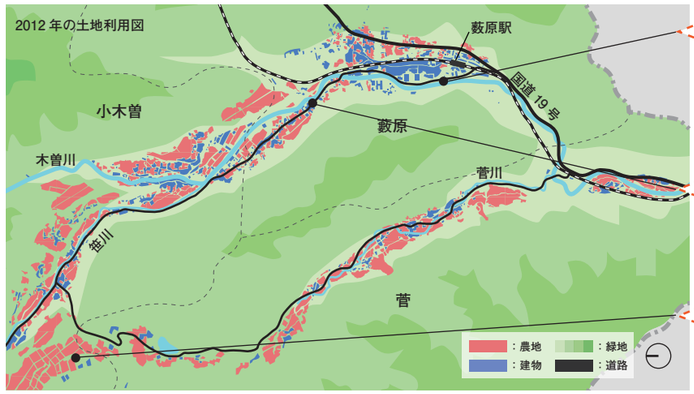
山が切り崩され、味噌川ダムの建設が始まりました

木祖村郷土館（昭和49年）

国道新鳥居トンネルの工事（昭和50年）

味噌川ダムの建設（昭和62年）

2012年:現在　平成に入り、人口は4000人を下回りました。高齢化率[※1]は3割を超え、過疎化が進んでいますが、木祖村は市町村合併を行わず、自立の道を選択しました

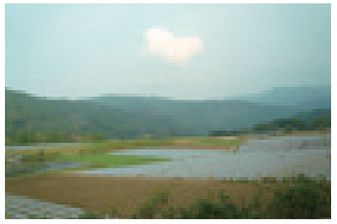


村内全域に村道などの幹線道路が整備され、道路沿いに村役場をはじめとする公共施設ができたことで、沿道景観は大きく変化しました

味噌川ダムの建設に伴い、河川の護岸工事が進み、親水空間の少ない河川へと変化しています

圃場整備により農業の集約化が図られ、農地の風景に変化が見られます

現在の木曽川


西山地区の白菜畑

県道奈川木祖線

まとめ

戦後から現在にいたるまで、木祖村では産業構造の変化に伴い、全体的に農地が縮小し続けてきました。さらに住宅などの建物が点在するように増加し、農地の広がりが細分化されたことで、里山景観が失われたところもあります。また、新たな道路の整備とともに建物が増加した地域では、村の風景を見る視点場が増加し、沿道景観に変化が起こったと考えられます。

このような変遷のなか、良好な景観形成のためには、くらしや産業にかかわる景観や歴史文化を活かした景観について、より具体的に景観づくりの方針を定めていく必要があります。

※1 高齢化率とは、65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合のこと

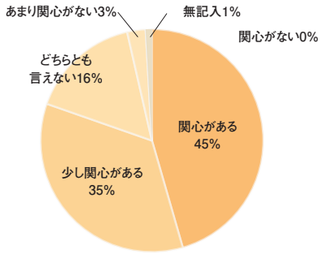
第1章　木祖村の景観特性と現状

第2章　木祖村の景観を捉えるテーマ

木祖村の景観づくりを進めるにあたって、木祖村観光開発審議会に景観計画策定専門部会が置かれ、住民アンケートや村内踏査を行いました。

平成24年度　景観に関する住民アンケート

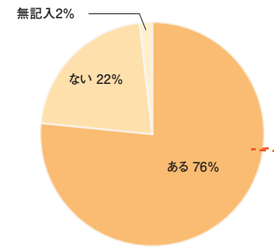
木祖村の景観に関する関心度



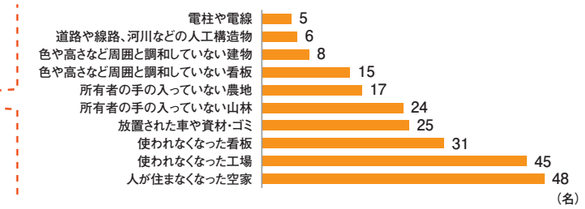
「木祖村らしい景観」とは?

- 奥木曽湖
- 田上観音堂
- 菅川と畑
- 冬景色
- あやめ池
- 大平池
- 木曽川
- 薮原祭り
- 菅の桜
- そば畑
- 花桃
- 里山の風景
- 田上観音
- 縁結神社
- 原村橋から見た菅川
- 春の芽吹きの山々
- 県道沿いの花壇
- 川釣りをしている人
- 鳥居峠から見た御嶽
- 水流豊かな川
- 奥峰、立ケ峰より見た展望
- 西山地区の白菜畑から見た木曽駒ヶ岳
- ダムから薮原地区を見たところ
- 県道沿いの木々、花壇、木曽川
- 西山農協牛飼育所付近から見た西山平
- 真冬の早朝に見る凍りつく森林
- 水の始発駅から見る木曽川
- やぶはら食堂や一休さんから見た薮原地区
- 水木沢天然林
- 白菜畑、スキー場
- 田畑で働く村民の姿
- 吉田地区の福寿草
- 花や樹木のある景色
- 薮原スキー場からの山々
- ダムの展望台から見た木祖村
- 消防署近くの材木置き場
- 小木曽嶺に差す朝明けの光こそ
- 鳥居峠からの薮原の町並み
- 道の駅から見下ろした町並み
- サニーヒル南から見た町並み
- 柳沢尾根公園から見た小木曽
- 鉢盛で源流方面を望む景観
- こだまの森から見た夜空の星
- 菅彼岸桜より見た木曽駒
- 初夏の新緑の山々、秋の紅葉
- 木曽川などの河川付近の景観
- 木工業が盛んである姿

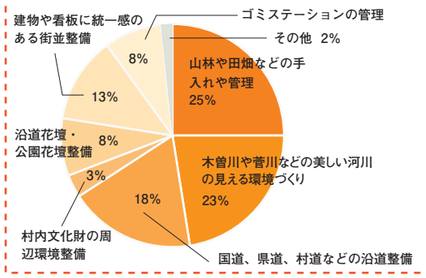
木祖村の景観を損ねているものはありますか?



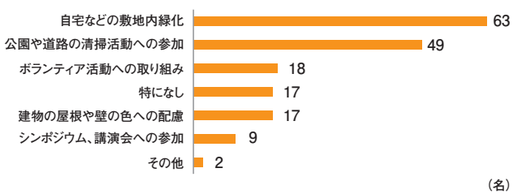
あると答えた方へ、それは何ですか?



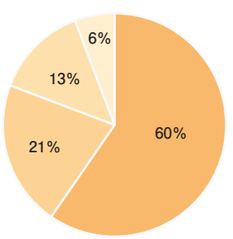
景観づくりで重要だと思うこと



あなたが取り組んでいること、取り組みたいこと

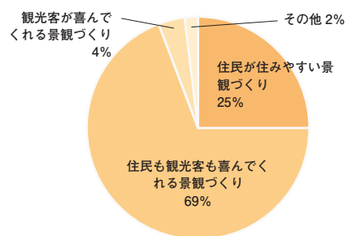


景観づくりのためのルールについて



- 美しい景観づくりを進めるには、看板や屋外広告物の大きさ・色を規制するルールは必要である
- 美しい景観づくりを進めるには建物や敷地に関する規制はやむを得ない
- 景観づくりとはいえ、個人の建物や敷地にルールを設けるべきではない
- 景観づくりとはいえ、看板や屋外広告物は商業活動に必要なのでルールを設ける必要はない

景観づくりは誰のために?



以上のアンケート結果から、木祖村の豊かな自然を次世代に引き継ぎ、くらしと観光あるいは産業とのバランスのとれた景観づくりや、歴史的文化的資源を活かした景観づくりが求められていることがわかりました。そこで、専門部会に景観アドバイザーや村役場職員などが加わり、木祖村の景観を捉え、整備していくための3つのテーマを導きました。テーマごとに分かれてワークショップを行い、検討を進めました。

テーマ1/くらし

居住空間から景観を考えることで、「未来へ残したい」ものだけでなく、豊かな村のくらしのために「改善したい」「創出したい」ものを導きます

- 薮原地区　空き家の活用、木製屋号の設置、電線の地中化、鳥居峠からみる宿場町の整備
- 小木曽地区　歴史的建造物の修理保存、観光地と農地と居住空間の線引き、温泉の活用、味噌川ダム周囲の緑化
- 菅地区　山村風景、水の保全、吉田地区福寿草の保護と周辺整備
- 村全体　居住敷地内の緑化、川、水、水場小屋の利活用、ガードレール、自販機の色、ブルーシートの規制、ごみステーションの環境整備とごみの減量化、生産活動の終了した看板の撤去、子どもが安心して遊ぶすがた、外灯の統一、木祖村式のコンビニエンスストア整備

テーマ2/産業

カメラや写生スポットや屋外広告物、構造物のあり方を見直すことで、新たな産業、雇用の創出を目指します

- 観光地誘致・観光カメラスポットのためのモデル地区設定　・カメラや写生スポットマップ
- 看板、のぼり旗などのルール作り　・ガードレールや屋外構造物の木製化推奨
- 自然保護・庭園化・維持管理のための指導員育成、トレッキングコース（散歩コース）の作成

テーマ3/歴史と文化

木祖村の歴史文化を物語る、感じることができる場所や風景などの保全と活用の方向性を探ります
3つの柱にしたがって、保全したいものを導きます

「江戸と京都を結ぶ中山道のど真ん中、木曽路の宿場と街道の歴史文化」
- 交通や信仰、文化など豊富な史跡が残る中山道鳥居峠
- 水場と石積みを利用した生活、職人や文人の足跡が残る薮原宿
- 木祖村の交通網の歴史と発展が感じられるスポット・人と自然が息づく街道

「歴史を感じる農村風景・季節感あふれる里山風景の保全」
- 小堂宇や多くの石仏、名木がたたずむ歴史空間・木曽川水系農業の発展と用水路の歴史が残る農村
- 住民生活と四季が一体となった里山
- 医療発達の面影が残る文化遺産と里山

「景観形成から未来を担う子どもたちへの教育に繋げるために・・・」
- 通学路からの景観
- 故郷を想い返すことができる遊び場
- 「危険箇所」マップ作成から「楽しい場所」マップ作成へ

第3章　木祖村の地区ごとの景観特性

各部会から出た意見や検討結果を3地区ごとに見直し、良いところや問題点までを含めて、各地区の景観特性として課題を述べます。

菅地区

木祖村の南西部、菅川沿いに広がる菅地区は、集落と田畑が一体となった季節感あふれる里山の原風景を残す地区です。

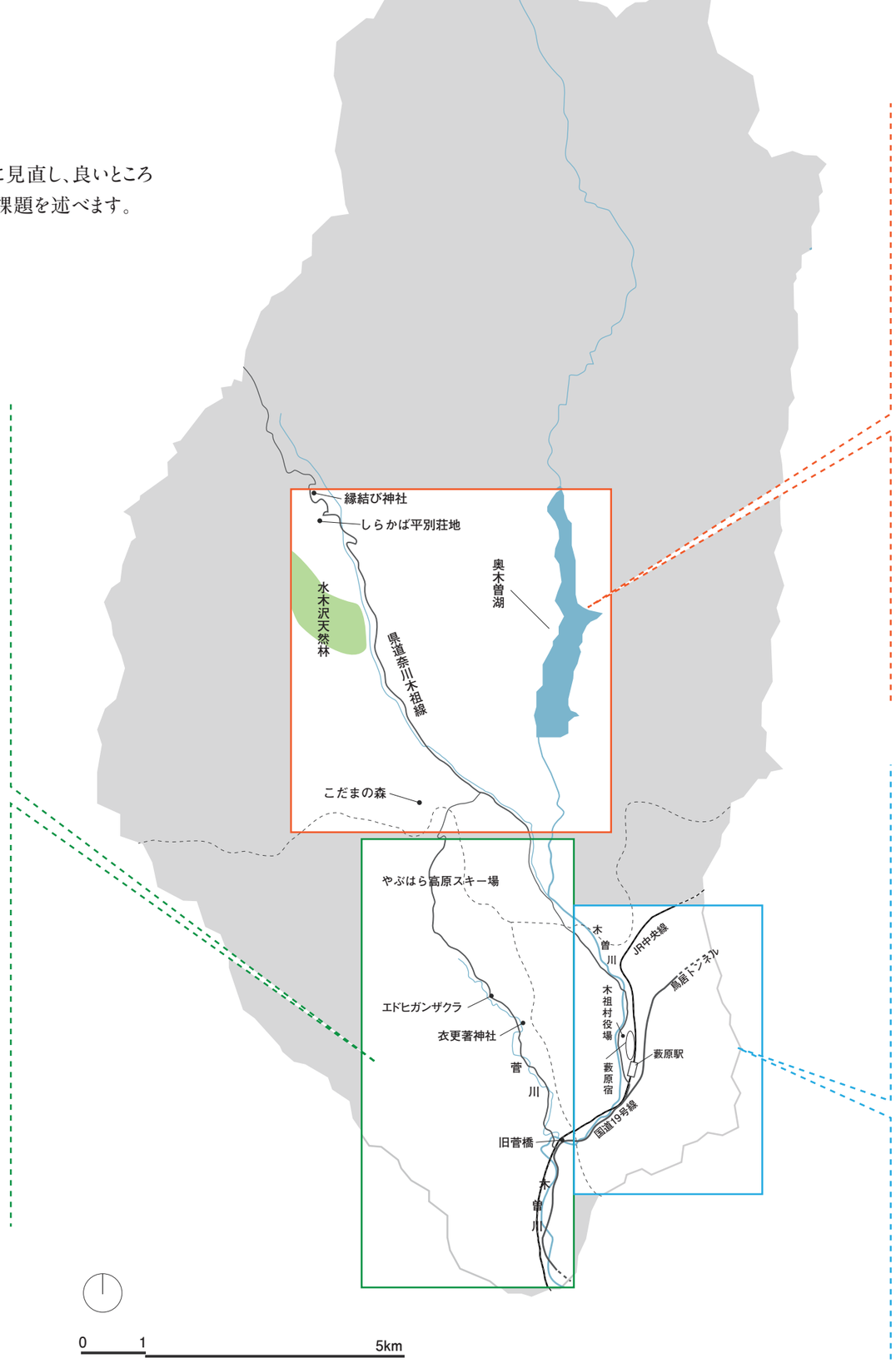
菅地区には、江戸時代の中山道以前から、松本平と木曽谷を結ぶ菅古道が通じており、鉄道開通後も木曽馬を木曽福島の馬市に運ぶ際に利用されてきました。野中眼科をはじめとする医者の村として長い歴史を持っており、菅古道沿いには石造物や衣更著神社、エドヒガンザクラなどの歴史を感じる景観資源が残っています。また、南部の吉田地区では、整備された福寿草群生地と、木曽川沿いの美しい農村風景が、国道の沿道景観をつくりだしています。北部には、開設から82周年をむかえた「やぶはら高原スキー場」があり、中京圏からの集客が可能な歴史あるスキー場です。

近年では、遊休耕作地の増加により里山景観の損失が懸念されますが、菅地区を中心にそば畑として再生させる動きが高まっており、夏にはそばの白い花が一面に広がる風景が見られます。菅古道沿いの文化財や土木遺産の旧菅橋などを充分に活用し、農村風景と調和のとれた沿道景観の創出が求められます。

そば畑の広がる風景

衣更著神社

土木遺産の認定を受けた旧菅橋



小木曽地区

木祖村の北部にあたる小木曽地区は、村内で最大の地区であり、笹川沿いに広がる歴史ある農村風景が特徴的です。小木曽を通っていた飛騨街道は、旧中山道から分岐し、奈川を経て、野麦峠・飛騨高山へ通じ、明治44年の中央西線の開通以降も、岡谷の製糸工場で働く飛騨の女工たちが頻繁に往来する街道でした。

小木曽では古くから農業が営まれており、特に木曽駒ケ岳を望む西山の白菜畑では、村の特産品である御嶽はくさいの生産が盛んに行われています。また、大自然の中にあるレジャー施設「やぶはら高原こだまの森」や木曽谷では珍しい針広混交林の巨樹が残る「水木沢天然林」など高原の清々しい涼風に癒される観光スポットがあります。さらに北部の別荘地の奥には縁結び神社があり、来訪者に対するおもてなしの景観づくりを進めていく必要があります。

平成8年には味噌川ダムが完成し、源流の里に新たな風景が生まれました。上下流交流の事業も含め、水を活かした景観づくりをより一層展開していくことが重要です。

圃場整備された西山の白菜畑

水木沢天然林

ダム湖百選に選ばれた奥木曽湖

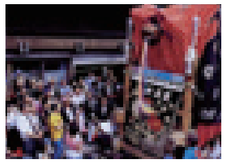
藪原地区

木祖村の南東部の藪原地区は、3地区のなかでは1,563人（平成22年現在）と最も人口の多い地区です。旧中山道の木曽十一宿のひとつである藪原宿を中心に、江戸時代に起源をもつお六櫛の生産で栄えた歴史をもっています。しかし藪原宿の町並みは、建物の更新と駐車場等の空地の増加によって、隣家と軒を連ねていたかつての宿場の伝統的様相を失いつつあります。鳥居峠へと続く街道沿いに残る史跡や文化財を保存し、紅葉の美しい宿場の風景をどのようにして残していくのかが、大きな課題です。

また、藪原地区特有の伝統文化として、毎年7月に開催されている藪原祭りがあります。御神輿と上獅子、下獅子と呼ばれる2つの山車が街道を練り歩きます。近年では、参加者が減る傾向にありますが、1年で最も藪原地区が盛り上がる日となります。

木曽川沿いには木祖村役場や小学校などの公共施設が立ち並んでおり、街道筋の南側にはJR藪原駅も存在し、藪原地区は村の中心的な位置にあります。鳥居トンネルから村の最南端まで通る国道19号線は近隣の各地域へつながる幹線道路であり、木祖村らしさを表現した沿道景観の整備が望まれます。

路上駐車が多い現在の藪原宿


長い歴史を持つ藪原祭

明治44年に開駅したJR藪原駅

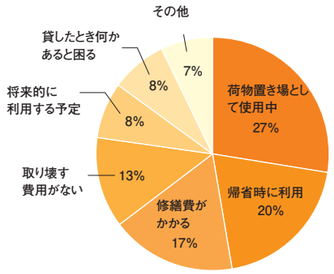
第4章　木祖村の景観に関する問題点と課題

ここでは木祖村の景観に関する問題点を把握します。

空き家

村内全域で空き家が増加しています。なかでも藪原宿の調査では、街道筋にある全119戸のうち空き家率が19.2%と全国平均を上回る値となっています。また、平成19年のアンケート調査では、帰省の際に滞在先として、あるいは荷物の置き場所として利用されている方が多く、空き家対策が滞る要因のひとつとなっています。火事等の恐れもあるため、早急な対策が求められています。

藪原宿



空き家を貸していない理由
（空き家に関するアンケートの結果報告書（藪原町並み周辺地区）平成19年8月実施、木祖村役場総務課より）

旧街道沿いの建築群と空地

隣家と軒を連ねていた伝統的な宿場の町並みが、駐車場や空き地の増加によって失われつつあります。藪原宿は木祖村の歴史的資源ですが、多くの住居が現代的なものへ建て替りました。住民の生活を大切にしつつ、これからどのように旧街道沿いの町並みをつくっていくのかが問われています。

藪原宿の空地の分布図

水路・河川の整備

源流の里として美しい木曽川水系の保全・整備が重要です。日常生活においても、歴史ある水場の活用など水との密接な関わりを表現し、水が見える景観づくりを進めることで、源流の里の景観に対する住民の意識の向上が求められます。

藪沢

遊休耕作地

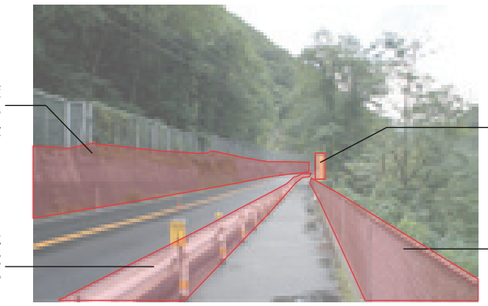
村内の遊休耕作地は76ha（平成22年）まで増加しました。遊休耕作地が増加すると、集落と耕作地が一体となった里山景観の損失につながります。

しかし近年では、そば畑として耕作地を再生させる動きが特に菅地区で高まっており、夏にはそばの白い花が広がる村の新たな風景となっています。この様な活動を持続させる仕組みづくりがこれから重要になります。

そば畑が広がる菅地区

沿道景観

沿道景観は河川、山並みなどの自然と建築物や広告物、ガードレール、電柱などの人工物といった、様々な要素でつくられています。よりよい沿道景観づくりのためには、通行者の安全性を考慮しつつそれぞれの場所に相応しい整備方針をたてることが重要です。また、交通量の多い国道19号線では、木祖村らしさを感じさせる景観づくりも必要です。



国道19号線

屋外広告物

村の風景に似つかわしくない、あるいはすでに役目を終え、放置されている屋外広告物が景観を害するひとつの要因となっています。よりよい景観づくりのためには、美しい風景に入り込む広告物に対して、色彩や大きさ、素材に関して場所に応じた検討を行う必要があり、そのためのルールづくりが今後の課題となります。しかし、地元の商店の看板など木祖村らしさを感じさせるものは、村の風景の一部として尊重することも大切です。

第２部
木祖村の景観づくり

第１章　景観計画区域

景観計画では、木祖村全地域を景観計画区域と制定します。

第2章　景観づくりの基本方針
第1節　景観計画がめざす将来像

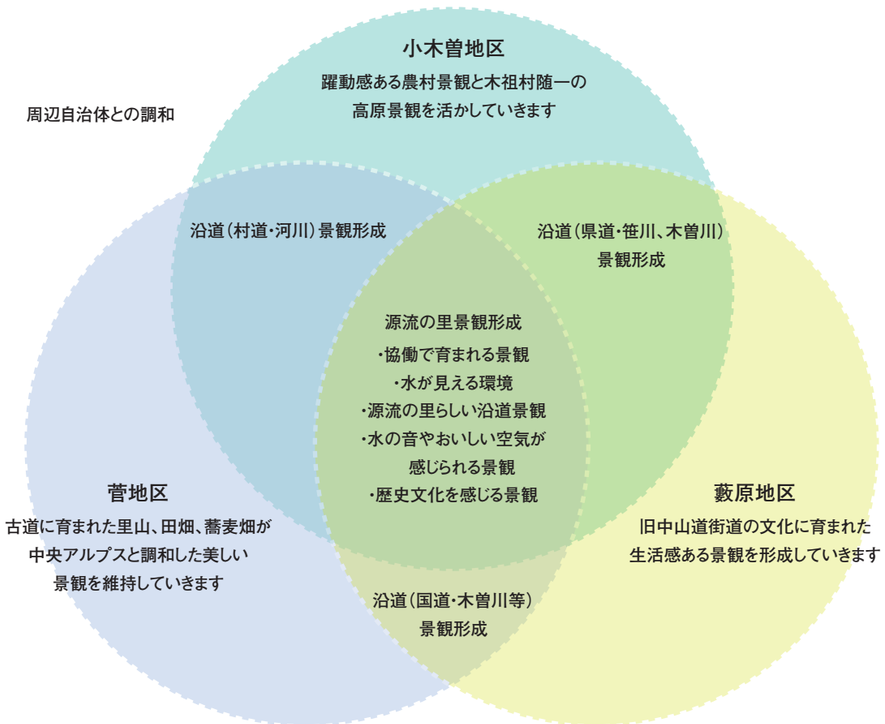
木祖村は明治22年にそれぞれ特色ある3つの村が合併してひとつの村となりました。当時から歴史文化や生活環境も異なり、現在もそれぞれの地域ごとの特色が受け継がれています。街道文化や歴史文化遺産、生活文化を重んじながら、藪原地区、小木曽地区、菅地区に合った景観形成が必要です。

一方で、木祖村がひとつの村として統一感を出していくためには、村内全ての地域が『木曽川源流の村』としての意識を共有し、一体となって景観形成を進めていくことが重要です。各地域を結ぶ笹川、菅川、木曽川といった一級河川および、村内各所を結ぶ国道、県道、一級村道やそれに付随した街灯、電柱等による沿道景観に重点を置き、関係機関へも協力を働きかけ、『木曽川源流の里』にある森林、田畑、人々の生活や活気、水、音、風、空、アルプスが身近に感じられる景観としていきます。

大きな時代の変革、経済の動向、少子高齢化による過疎等々の影響から、村内の景観は大きく変化してきました。経済活動が行われなくなった森林、農地、空家、店舗、看板、道路などの整理や再生、活用方法について、それぞれの分野で具体的な対応策を検討し、景観の維持、再生、景観インフラ整備を図ることが求められています。

景観計画を推進していくためには、なによりも村民の景観形成に対する理解と協力が不可欠です。長い年月は必要ですが、目的意識を高く持ち、景観形成に対する意識高揚を図りつつ、実践プランを考えながら、公共施設をはじめとする景観形成の先導的役割となる事業の推進、モデル地域の指定などを行い、様々な地域から人が集まり、移り住みたくなるような美しく愛される村を目指します。

源流の里 木祖村景観づくりの将来像



第2節　基本方針のための木祖村キーワード

豊かな環境を次の世代に引き継ぎ、自然と歴史に裏打ちされた木祖村らしい良好な景観の形成を図るにあたり、木祖村の景観に関連するあらゆるキーワードを抽出し、検討します。これらのなかから5つの基本方針を導きます。

山と木

植栽を整備したい

- まちなかにプランターを増やしたい
- 花木の手入れや草刈りをきちんと行いたい
- 土地になじみのある樹木を大切にしたい
- 積極的な森林づくりに努める
- 雇用対策の一環として植樹作業を行い、育樹へ結びつけ、花木を増やしていきたい

- 中学校や役場、村民の薪ストーブの利用を促進し、温暖化対策とともに、間伐材の有効利用を図る
- 希少な生物について学ぶ機会を増やしたい

維持管理ができるか

- 後継者不足による耕作放棄地の増加への対策が必要である
- 耕作放棄地を美しいそば畑として生まれ変わらせ、栽培から販売までを行うなどすれば、維持管理が促進されるのではないか
- 里山の風景づくりや景観スポットの維持・整備ができるか
- 環境整備の管理者の育成が必要

- 観光客のニーズやサービスへの対応が困難な場合がある
- 観光が新しい産業になるのかわからない

源流と水

村のPRと観光開発

- 源流をテーマにしたイベントを開催し継続していく
- 源流の里としての四季の花木や水場を整備し、見どころマップを充実させる
- 村の自然環境を活かした資源開発を進めたい
- 源流の里として積極的な森林づくりに努める

源流の景観を活かしたい

- 源流の里として川を活かす方法を考えたい
- 川の流れが見える景観づくりを進める
- ため池は、散策や自然観察の場所である
- 今あるものに少し手を加えて村内各所をビオトープ化することで、「蛍の乱舞する里」などになり得る
- 水力発電など、田畑以外で水を有効活用して見える場所を増やしていく
- 源流の景観にふさわしい護岸工事を行う
- 源流の里にふさわしい水飲み場を設けたい

- 人間の都合だけで環境整備をするのではなく、本当に動物の目線になって整備することで、自然環境を守っていきたい
- 自然が多く美しい農村風景を大切にする
- 自然のサイクルを戻したい
- 自然保護を考えればあまり観光客に来てほしくない

- 村民が誇れるような歴史ある源流の里を目指す
- 用水路の風景を守り農業の歴史を伝える
- 源流の里にふさわしい水飲み場をもっと設けたい
- 川や水場、その音は木祖村の財産である

- 人々の生活と水が密接な関係にあることを表現する
- 湧水を飲食に利用していきたい

歴史と街道

人工物を改善したい

- ゴミステーションを木製化したい
- 沿道のコンクリートの擁壁を木製ブロックを使ったものにしたい
- ガードレールを木製化したい

- 電線や電柱が目立つところがあるため、地中化など改善法を住民と良く話し合って決めるべき
- 白いガードレールは景観に合わない
- 不要な看板の改善や撤去を行い、木祖村にあった看板にしていく

- ブルーシートの色を改善し木祖村色を出していく
- 車窓から見えるコンクリート壁は無機質でよくないため、自然石へと変えていきたい

- 沿道に緑が多いとよい

- 景観形成条例も視野に入れ、建物高さ等の規制など木祖村としてここだけは守るというルールをつくる
- 空家の現状把握が必要である

- 住民の生活を第一に考えるべき
- 様々な住民活動が盛んに行われる村づくりを進めたい

歴史とくらしを守りたい

- 薮原の町並みが寂しい
- 村の歴史に関心を持つ人が育つような計画づくりが必要
- 歴史的建造物や街道筋の環境整備・保全を行う
- 住民の生活と密着した薮原宿を維持していきたい
- 屋号は宿場町のイメージに効果的である

- 観光地の宿場とは違い生活感あふれる薮原宿を守りたい
- 祭りなど伝統行事を守っていきたい

- 歴史的価値のある並び家は生活しづらく、若い人は住みたがらないため、生活しやすい建築を設計してほしい

観光開発審議会および景観計画策定ワークショップ（計22回）で得られた意見約400を、同種のものごとに求め集約しました。その結果、「源流と水」、「山と木」、歴史と街道」というまとまりになりました。

- 自分の身の回りの景観づくりから始めたい
- 景観に対する住民の意識を高め、住民活動に積極的に関わっていく
- 商店経営やNPO法人、住民活動、町並みなどのあり方に対する課題や、住民協定の意味を村民が共有する
- 住民一人一人の景観に対する意識が観光客を自然に呼び込めるようにしていく

1.住民のくらしを大切にした活気あふれる景観づくり

2.村の資源を活かしたおもてなしの景観づくり

3.木曽川源流の水を活かした景観づくり

4.美しい里山と四季の花咲く景観づくり

5.歴史と街道文化の薫り高く
生活の風景が感じられる景観づくり

5つの基本方針について詳しく説明します。

1.住民のくらしを大切にした活気あふれる景観づくり

・住民の生活を第一に考え、若者が誇りを持って村で暮らしたいと思える景観づくりを進めます。
・伝統行事やサークル活動など住民の様々な交流活動を促進し、地域コミュニティのつながりを持続させます。
・村の抱える課題に対して、村民全員で問題意識を共有していきます。

藪原祭りの様子

2.村の資源を活かしたおもてなしの景観づくり

・木曽川水系を主とした水環境や歴史的資源の保全に努め、来訪者の心を豊かにするふるさとの景観づくりを進めます。
・スキー場や水木沢天然林などの村の観光資源を活かして交流人口の増加を図ります。
・村の資源を発掘して新たな産業の育成を目指します。
・人工構造物のあり方を見直し、不必要なものの撤去や改善を行って、村の美しい風景づくりに努めます。

水の始発駅付近・県道沿いの花壇

3.木曽川源流の水を活かした景観づくり

・源流の里らしい河川環境や味噌川ダムがつくる雄大な風景など水を活かした景観づくりを進めます。
・歴史ある水場や沢のせせらぎを活かし、生活と水のかかわりを表現していきます。
・木曽川上下流のつながりを大切にし、都市との活発な交流を生み出します。

木曽川

4.美しい里山と四季の花咲く景観づくり

・四季折々の変化に富んだ豊かな緑を育て、木陰のさわやかな風や花々の香りを感じる村づくりを進めます。
・里山を適正に管理し、間伐材の有効活用を促進します。
・豊かな水を生み出すためにも、自然環境を維持・管理していく担い手を育成します。
・飛騨街道から見える歴史ある農村風景を保全するとともに、そば畑や福寿草を育成し、村道菅線沿いに広がる里山景観を維持します。

小木曽の農村風景

5.歴史と街道文化の薫り高く生活の風景が感じられる景観づくり

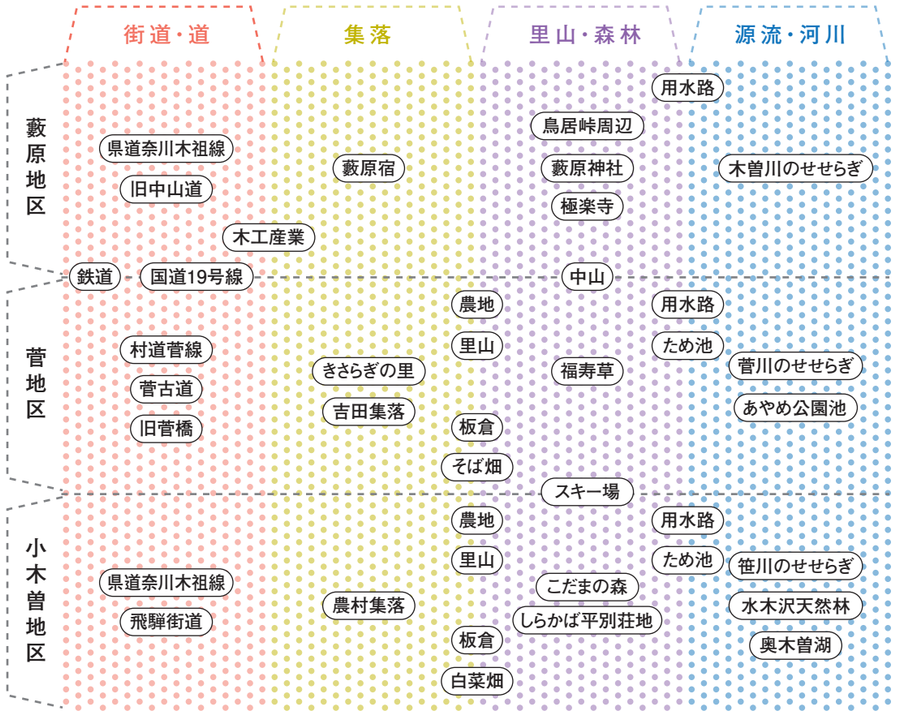
・鳥居峠へ続く藪原宿は街道文化を残す歴史的資源であり、水の音と生活感あふれる住みよい町並みを残していきます。
・藪原祭りやお六櫛など村の伝統行事や技術を後世に伝え、住民一人ひとりの村への愛着を深めていきます。
・空き家や遊休荒廃地の管理・整備を進めて活用を図り、新築の建物に対しては周囲に調和する外観デザインを推奨します。
・安全性を考慮しつつ、自然豊かな村の風景にあった沿道景観に改善していきます。

現在の藪原宿

第4節　景観づくりのための要素

基本方針をもとに景観づくりのための要素それぞれの整備方針を設定します。景観づくりのための要素は村全体に広がっており、地区ごとの特色を活かした整備が必要です。

木祖村における景観構成要素

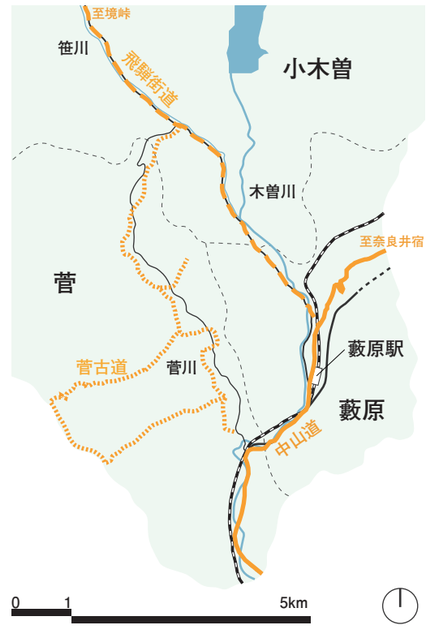


街道・道

木祖村における街道・道

主要街道の中山道、木曽谷を結ぶ菅古道、小木曽から日本海に至る飛騨街道などによって木祖村は、古くから交通の要所として、物流とともに活発な文化交流が行われてきました。新しい文化や思想を取り入れる木祖村気質は、街道を抜きには考えられません。また、傾斜地が多い村内の道は、石垣などで美しく造られ特徴ある風景をつくっています。

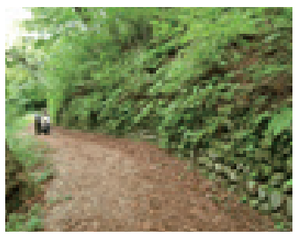
それぞれの道の役割や場面を考えながら、安全で豊かな自然に調和した道の風景を大切にします。



整備方針

- ●国、県、木曽広域連合との連携の中で、木祖村の特徴ある道の景観を考えます
- ●看板や建物、構造物は、木や水などの美しい自然風景との調和を図ります
- ●街道文化と人々の生活を大切に、活気ある生活を演出する道を考えます

宿場の面影を残す藪原宿


鳥居峠

菅古道の入り口を示す看板

菅古道沿いの衣更著神社

国道19号線

笹川沿いの県道奈川木祖線

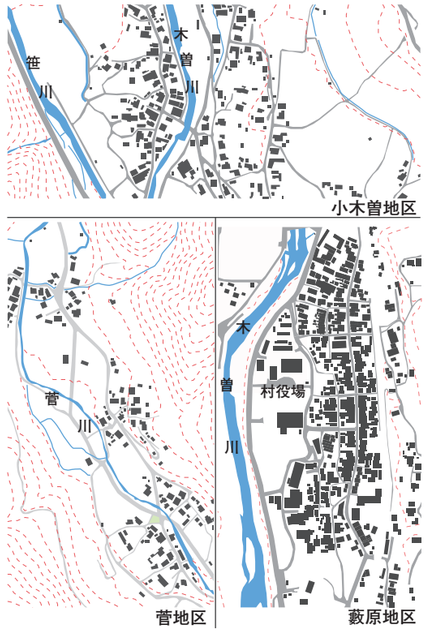
第2部　木祖村の景観づくり

集落

木祖村における集落

木祖村は、明治22年、藪原村・小木曽村・菅村の三村が合併して現在の木祖村となりました。それぞれの集落は、宿場町、農村、医業などを生業とし、町割りやランドスケープに特徴ある景観を持っています。また、しらかば平別荘地やこだまの森周辺も、新たな産業と共に、新しい集落を形成しています。

歴史と土地の特性を活かしながら、生活や産業に根差し、周辺の豊かな自然環境と共生した集落の保全・形成を目指します。

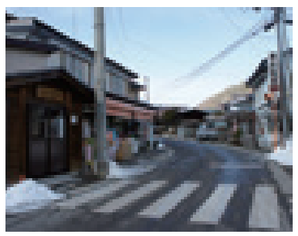


整備方針

●歴史の中で育まれた、町割り・地割の構成単位を現代の生活に活かします
●建物の素材・形態等は、木祖村の原風景を重視してデザインします
●集落ごとに、景観を育てるコミュニティやルールづくりを考える場を大切にします

藪原宿

藪沢沿いの集落と鉄道


小木曽商店街

田ノ上集落に建つ観音堂

菅地区（栗屋西）の集落

国道から見る吉田地区の集落

里山・森林

木祖村における里山・森林

木祖村は土地の約9割が山林で、林業を始めとして、木工産業、薪の調達、農業の堆肥など、人々は里山や森林とともに生活してきました。大切に手を入れてきた里山や森林、美しい水を育む天然林などは、木祖村の貴重な資源のひとつです。

この資源を、現代の生活の中にも取り入れ、木材の新たな活用方法を探りながら、美しい風景を守っていきます。また、集落や沿道、河川沿いにも、花と木で潤いのある景観をつくりだします。

整備方針

●伝統産業とともに、あらたな産業を考えながら、森林資源を活用します
●里山や林などを美しく維持していくための担い手を育てます
●村全体の風景をイメージしながら、花や木を育て潤いと彩りある景観をつくります

菅地区のそば畑の広がり

エドヒガンザクラ

あやめ公園池周辺のハナモモ

菅地区・宮沢の春の様子

村内各所に整備された花壇

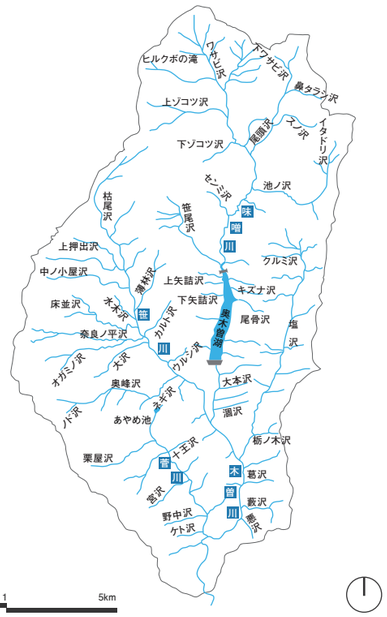
木工文化センター

源流・河川

木祖村における源流・河川

周囲を分水嶺に囲まれた木祖村は「木曽川源流の里」として、豊かで清冽な水を下流の街や村に届けています。至る所に湧き出す井戸は生活用水として利用され、農業にも清らかな水は欠かすことができず、豊かな水は木祖村の景観の源です。

近年ではエコツーリズムとして人々が水に癒しを求めるなど、源流の水は様々な側面で注目されています。清らかな水をまもりつつ、水と親しむ景観を創出します。



『木祖村誌、源流の村の自然』図1-4より作成

整備方針

●「木曽川源流の里」として、豊かな森と共に、清らかな水を大切にします
●湧水やせせらぎなど、生活とともにある水の風景を育みます
●奥木曽湖や水木沢天然林など、新たな産業として水と親しむ場面を考えます

藪原

木曽川・水の始発駅周辺

木曽川とその周辺に広がる集落

藪沢と鉄道の交点

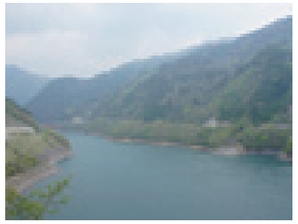
街道筋にある水場

アーティストパークの水場

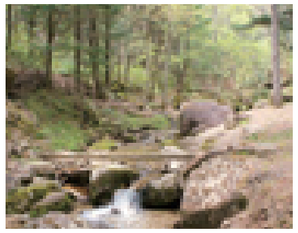
宿場内の手作り水車

小木曽

笹川


奥木曽湖

奥木曽湖からみた小木曽地区


水木沢天然林

上下流交流事業・平成日進の森林

奥木曽湖・キズナの力水

菅

春の菅川の様子

衣更著神社周辺の菅川

吉田地区を流れる木曽川

あやめ公園池の東屋

木曽川にかかる旧菅橋

点在する湧水

第5節　地区ごとの景観推進イメージ

5つの基本方針にしたがって、景観づくりの要素を組み合わせ、地区ごと場所ごとの景観推進イメージを提案します。

小木曽地区

遠方に木曽駒ケ岳を望む小木曽地区は、雄大な自然に恵まれた地域として、広がりのある景観づくりや、雄大な景観を実感できる場所づくりを推進します

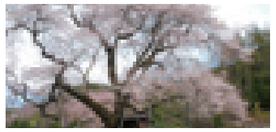
しらかば平別荘地
宅地内の庭園整備の誘導、使われなくなった建物の有効利用を検討し、自然あふれる別荘地としての風景を創出します

水木沢天然林
子どもたちが自然環境に親しめるように整備し、こうした環境を保護する未来の担い手を育成します

白菜畑（西山）
雄大な自然をより深くより身近に感じられるように、ビューポイントの設定など木祖村の景観を楽しめる場所を創出します

菅地区

山間の穏やかな里山風景のなかに歴史的建造物が点在する菅地区は、生活景を中心にひとびとの息づかいが感じられる景観づくりを推進します



十王堂付近のエドヒガンザクラ
電柱・電線の移設を検討し、エドヒガンザクラ付近を歴史文化資源として、整備します

衣更著神社前の宮沢
川を整備し、見るだけでなくせせらぎが聞こえる里山風景を創出します

旧菅橋
国道や鉄道の橋梁が望める場所として整備します

国道１９号沿い（吉田地区）
沿道構造物の整備により、木祖村の豊かな森林を感じられる景観を創出します

藪原地区

旧中山道藪原宿を中心に河川や国道、鉄道が交差する藪原地区は、多彩な歴史文化があふれる地域として、にぎわいのある景観づくりを推進します

木曽川沿いの道
木祖村らしさを演出できる沿道構造物とするすることで、木祖村を俯瞰的に眺められる沿道景観を創出します

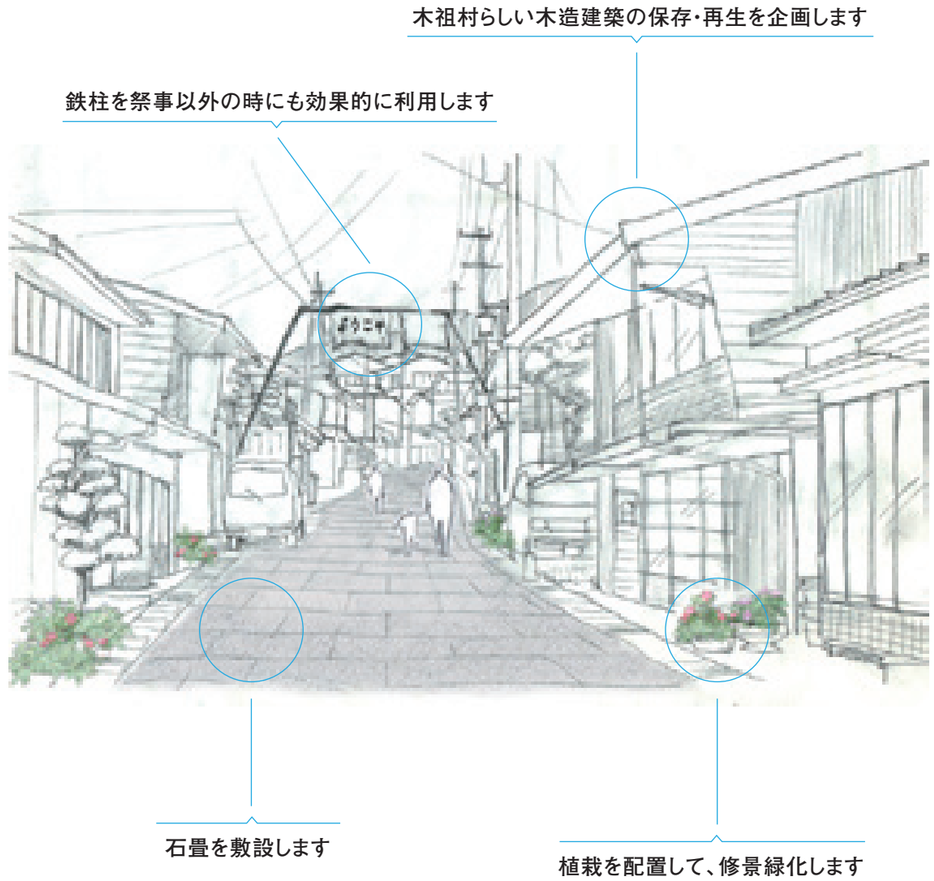
鳥居峠
「石造の鳥居」や石積みの保全など、史跡としての整備とともに、鳥居峠からの眺望を確保します

藪原宿
旧中山道宿場町の面影を継承しつつ、多目的に交流できる場所として、にぎわいのある景観を創出します

藪沢と鉄道の交差
民家と鉄道、川の調和を図るとともに護岸および遊歩道の整備など親水性の高い風景を創出します

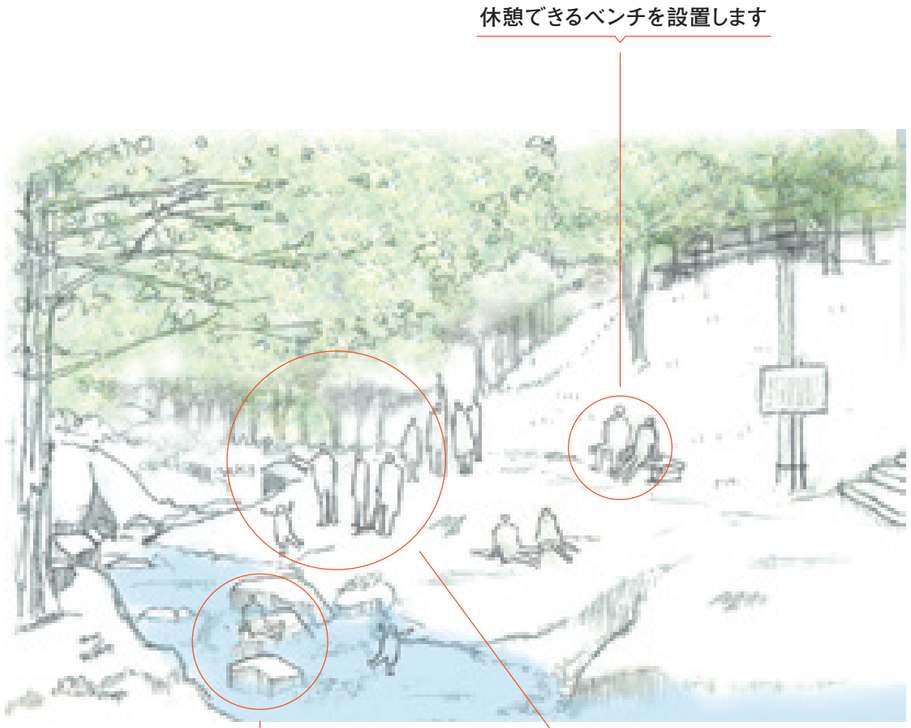
藪原地区／藪原宿　景観推進イメージ

旧中山道宿場町の面影を継承しつつ、多目的に交流できる場所として、にぎわいのある景観を創出します



小木曽地区/水木沢天然林　景観推進イメージ

子どもたちが自然環境に親しめるよう整備し、こうした環境を保護する未来の担い手を育成します

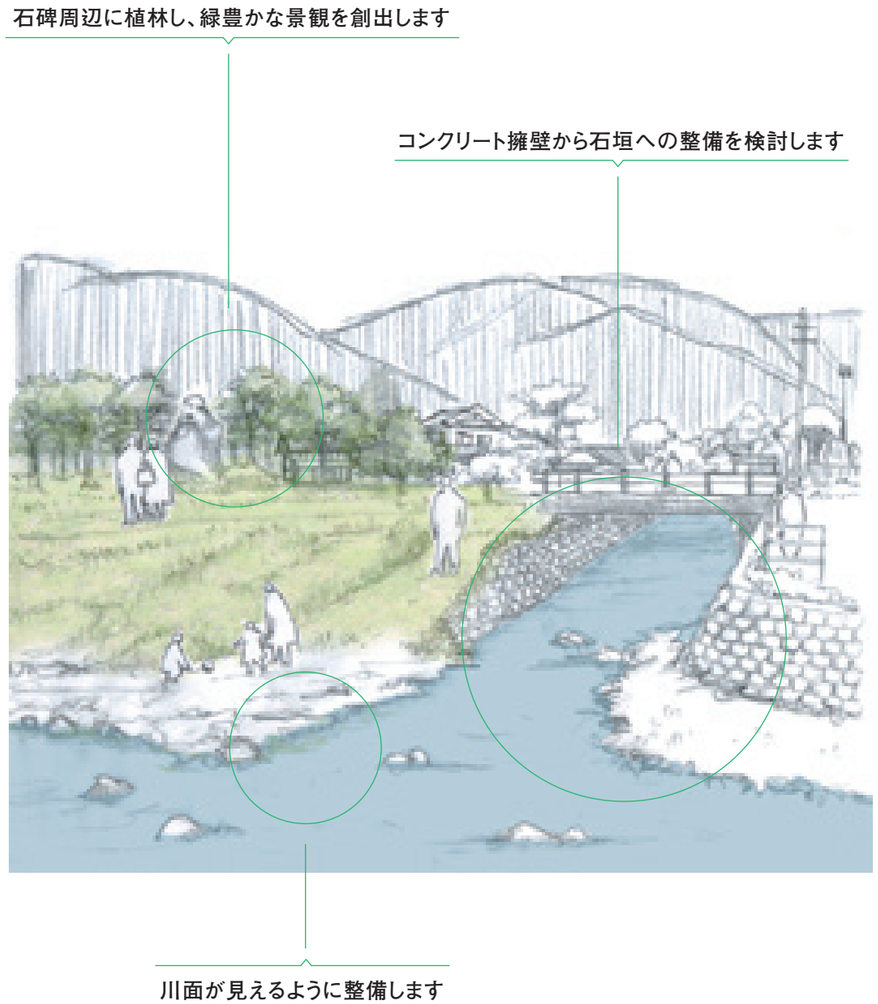


菅地区/十王堂付近のエドヒガンザクラ　景観推進イメージ

電柱、電線の移設を検討し、エドヒガンサクラ付近を歴史文化資源として、整備します

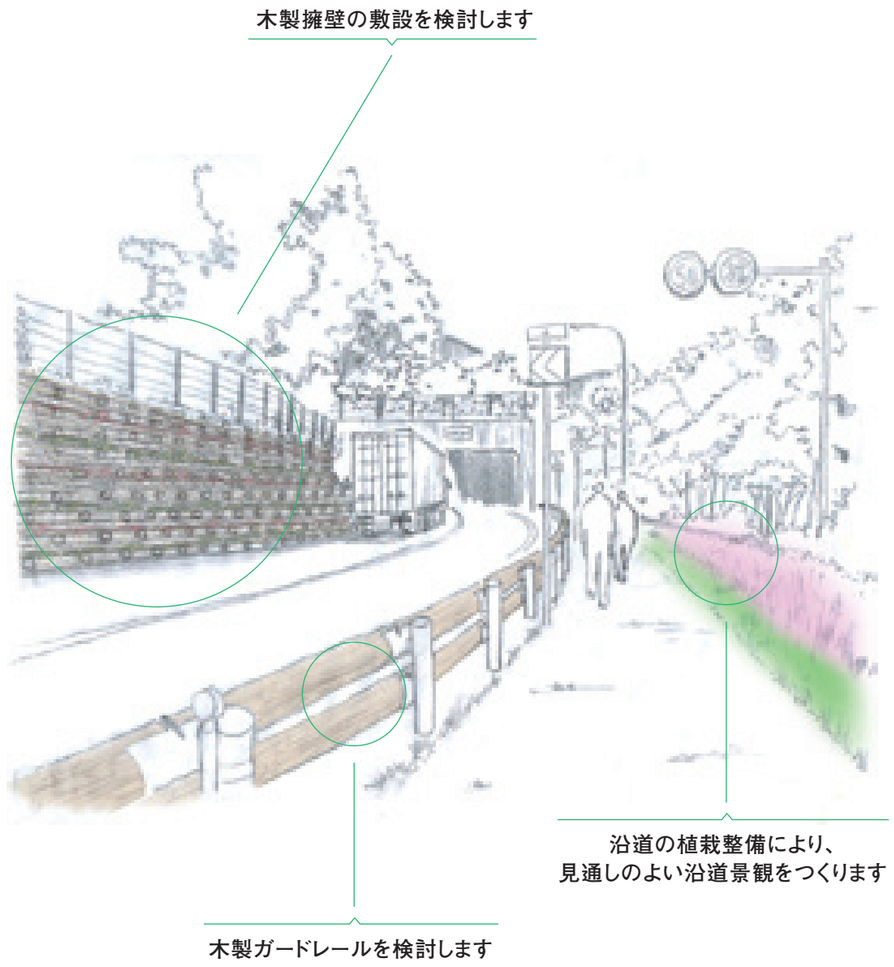
菅地区/衣更著神社前の宮沢　景観推進イメージ

川を整備し、見るだけでなくせせらぎが聞こえる里山の風景を創出します



菅地区/国道19号沿い（吉田地区）　景観推進イメージ

沿道構造物の整備により、木祖村の豊かな森林を感じられる景観を創出します



第3章　景観形成の取り組み体制

源流の里景観づくりの協働

木祖村では従来、美しい村づくりのために村民による様々な団体が貢献しており、これからも民間団体、国や県、景観アドバイザーなどの専門家との連携やしくみを整え、景観計画を推進していきます。

企業・団体

- 美しい景観づくりに対する理解や活動
- 事務所、工場、看板の景観に対する配慮
- 周囲に調和する建物の配慮
- 事業所や地域の清掃、花植えなどによる演出

村民

- 美しい景観づくりに対する理解や活動
- 家の周りや地域の環境美化活動への参加
- 周囲に調和する住宅の配慮
- 可能な範囲での自分の家の周りや田畑、森林の管理など

協働

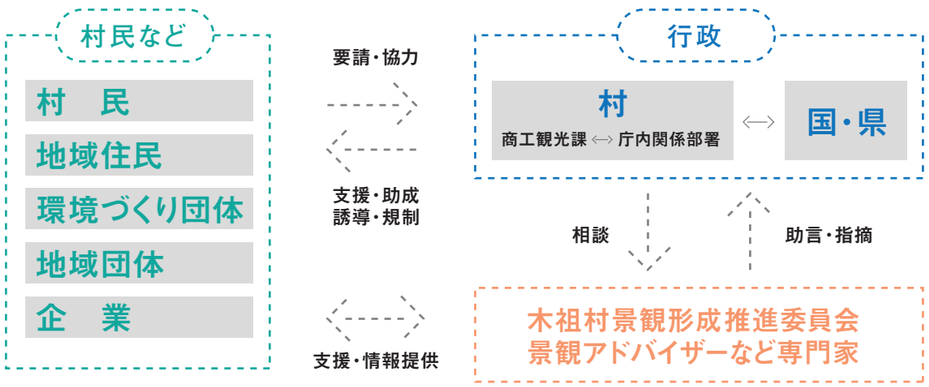
行政

- 景観づくりに対する村民への意識啓発活動
- 公共事業における景観への配慮とチェック体制の整備
- 景観に関する関係各課の連携
- 景観に関する住民相談窓口の設置
- 道路、河川清掃、花植えなどによる演出
- 村民主導の景観づくりに対する専門家の派遣
- 村民や学識経験者、専門家による木祖村景観形成推進委員会を立ち上げ、実践プランを策定し、事業の推進を図る
- 景観の事業推進を図るため、景観に関する補助施策を策定

木祖村景観形成推進委員会

木祖村景観形成推進委員会を設置し、村民、学識経験者、専門家による事業推進に関する審議の場を設けます。また、推進委員会は、景観計画の変更など重要な案件についても審議します。

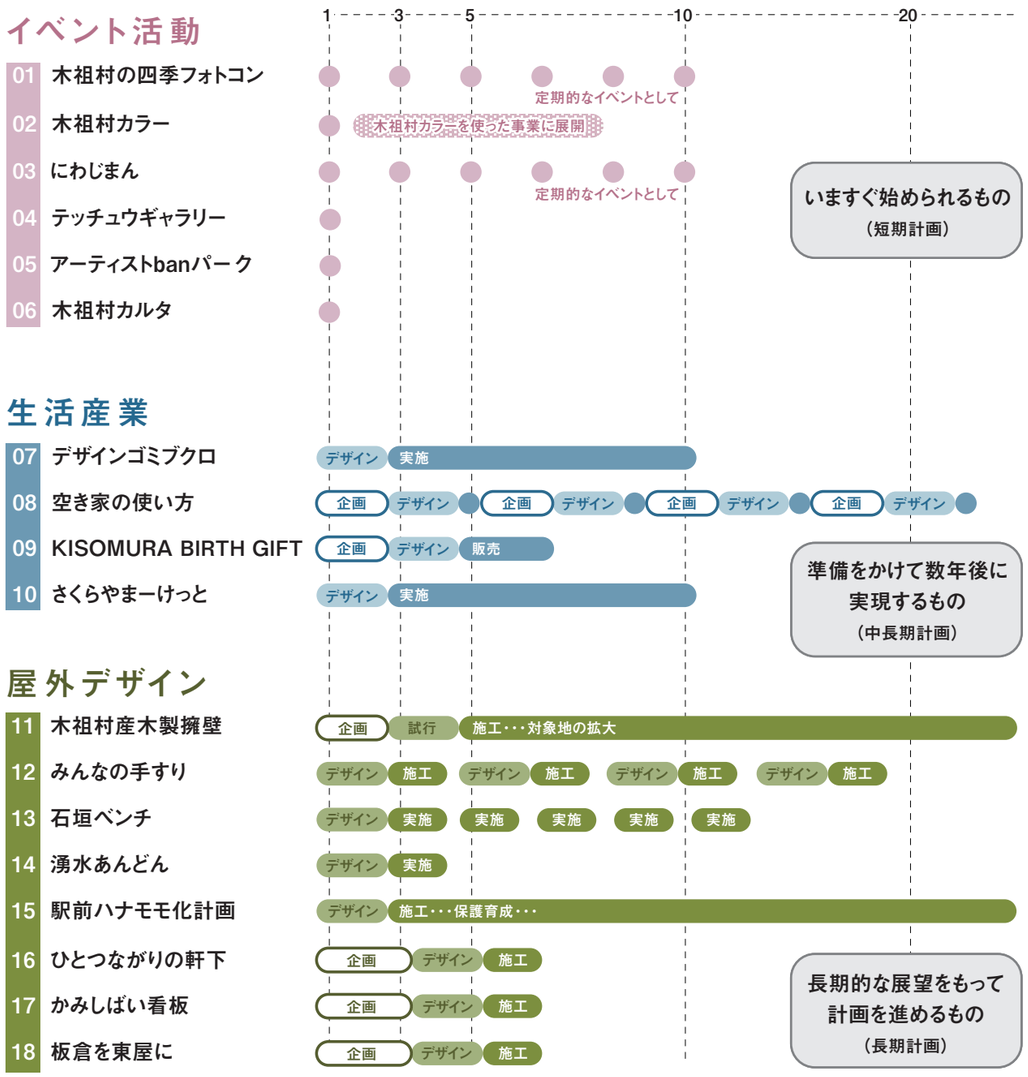
景観づくり推進体制図



1. 景観デザインのアイディア集

木祖村の美しい景観は、人々のいきいきとした生活の様子から生み出されます。

ここでは参考例（作成:信州大学寺内研究室）として、景観計画を推進するための景観デザインのアイディアを「イベント活動」「生活産業」「屋外デザイン」という3つのカテゴリで紹介します。これらは「いますぐ始められるもの」から「長期的な展望をもって計画を進めるもの」までありますが、今後、木祖村景観形成推進委員会によって、実践プランの作成が検討されるなかで、具体的なデザインまで含めて、村民みなさんと議論しながら、木祖村の景観づくりを検討していきます。



イベント活動 01

木祖村の四季フォトコン

1 3 5 10 20 定期的なイベントとして

現状・提案

木祖村でフォトコンテストを開催する。変化に富んだ四季を楽しみながら、木祖村の魅力を多くの人に知ってもらうことを目的とし、さらに村民の景観づくりに対する意識の向上を目指す。

コンテスト概要

審査員、村民による投票、木祖村名古屋出張所「さくらや まーけっと」にて一般投票

展示

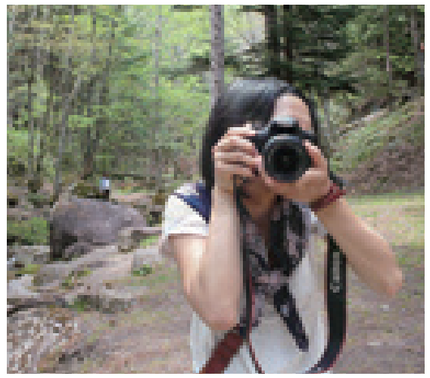
木祖村アーティストパーク、木祖村名古屋出張所「さくらや まーけっと」

最優秀賞

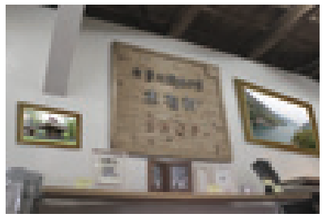
木祖村の名産品のパッケージデザインに採用する。

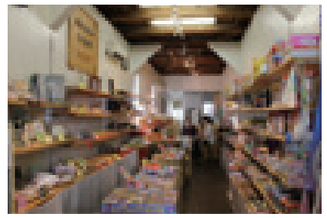
ー四季感じる風景の例ー

春…エドヒガンザクラ
夏…藪原祭り
秋…紅葉
冬…木曽路氷雪の灯まつり



商品パッケージ例


写真の展示


さくらやまーけっと

イベント活動 02

木祖村カラー

1 3 5 10 20 木祖村カラーを使った事業に展開

木祖村カラーチャート

現状・提案

木祖村の景観色を風景からだけでなく様々な農産物や産業から提案する。“木祖村が元々もつ色味”を生活の中に顕在化させることで、木祖村の魅力を引き出す。

木祖村カラーチャート

木祖村の風景、有名建築物、特産品などから木祖村のイメージカラーを抽出し、全18色のカラーチャートをつくる。そこから景観色を反映させた事業に展開し、レジャーシートなどを商品化する。

資料編

イベント活動 03 にわじまん

1 3 5 10 20 定期的なイベントとして

現状・提案

木祖村村内を対象にしたガーデンコンテストと、それを題材にした写真コンテストを開催する。年一回個人部門と団体部門で庭づくりのグランプリを決め、同時に、エントリーされた庭をイベント当日に開放し、写真を撮りに来た人との交流を図る。

イベント活動 04 テッチュウギャラリー

1 3 5 10 20

現状・提案

薮原祭りのとき以外には使われない鉄柱を、作品展示に利用して、街路を屋外のギャラリーとする。

イベント活動 05 アーティストbanパーク

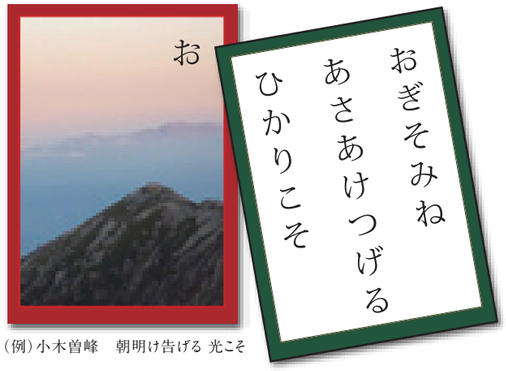
1 3 5 10 20

現状・提案

アーティストパークに移動式カフェやブックモービル、即売用のバンを複数あつめて、イベント化する。

イベント活動 06 木祖村カルタ

1 3 5 10 20



（例）小木曽峰　朝明け告げる 光こそ

木祖村カルタ

木祖村カルタ大会

現状・提案

木祖村にちなんだカルタをつくる。作成ワークショップでは住民の交流をはかり、カルタ大会や学習教材とすることで木祖村のPRを行う。

<カルタをつくるにあたって大事にすること>

・木祖村らしい風景や文化や文化財を詠み込む
・木祖村に流れる川を詠み込む
・木祖村をにぎわす動植物を詠み込む
・川や水の大切さについての理解が深まるうたとする

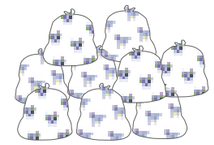
生活産業
07 デザインゴミブクロ

1 3 5 10 20
デザイン 実施

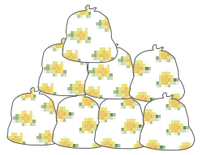
現状・提案
ゴミが置かれている場所をゴミブクロのデザインによって楽しい風景にする。ゴミ捨てのマナー向上やゴミ捨場の美化に努める。

ーGARBAGE BAG ART WORKー
ひとりでも多くの人がゴミのことに、地域の環境に、地球の未来に目を向けてくれるようにという思いから、アートを通してゴミ問題に対する様々な活動を行っている。
例えば、役目を終えた農業用ハウスのゴミ袋へのリサイクルや、ゴミ袋のデザインでゴミ置き場をアートにするプロジェクトなど人々がゴミ問題を考えるきっかけを作っている。

参考:http://www.gba-project.com

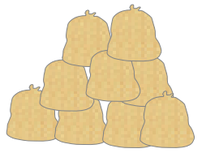

Study 1. りんどう

Study 2. ハナモモ


Study 3. 福寿草

Study 4. 牛柄

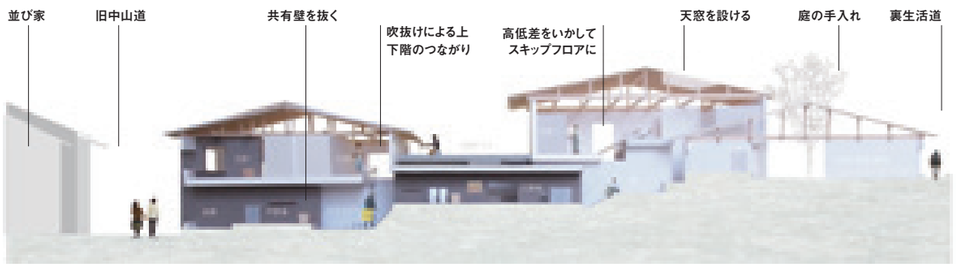
Study 5. さくら


Study 6. とうもろこし

生活産業
08 空き家の使い方

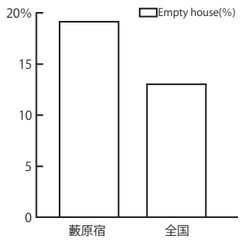
1 3 5 10 20
企画 デザイン 実施

（例）4軒連続した並び家（空き家）の再生案



断面パース

現状・提案
藪原宿では空き家の増加が目立つようになり、それらの維持管理や活用に関心が高まっている。かつては旧街道宿場町として栄え、間口がせまく奥行きの長い町家のような並び家は、村の重要な文化的ストックである。
藪原宿の建物の建ち方を活かしたさまざまな利活用の提案を行う。

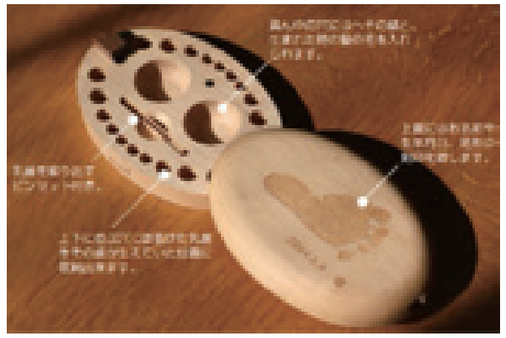


藪原宿と全国の空き家率の比較

生活産業
09 KISOMURA BIRTH GIFT

1 3 5 10 20
企画 デザイン 販売

現状・提案
木祖村の木工製品を組み合わせたギフトを企画し、生まれてきた子どもたちへ贈り、村全体で誕生を喜び祝う。数百年に及ぶ木工の歴史と伝統を大切にし、長く使い続けることができるような、木祖村ならではのギフトを提案する。



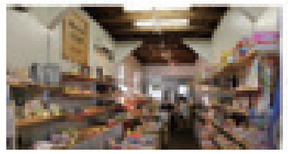
名前入りの食器

生活産業
10 さくらやまーけっと

1 3 5 10 20
デザイン 実施

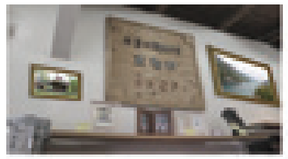
実演店頭販売

現状・提案
木祖村は名古屋に木工製品などの特産品を販売するアンテナショップを持っている。来客は多いが、木祖村に関するものを買う人は少なそうだった。そこでこの場所で木祖村のことをもっと知ってもらうためのイベントを企画する。



手前が駄菓子屋、奥が元カフェ

フリースペースでお六櫛体験



木祖村の見どころの写真を飾る

アイディア商品の販売

資料編

屋外デザイン

11 木祖村産木製擁壁

1 3 5 10 20
企画 試行 施工・・・対象地の拡大

現状・提案

木祖村産の木材を使った木製擁壁を提案する。花壇にもなり、村の景観を美しく彩る。

屋外デザイン

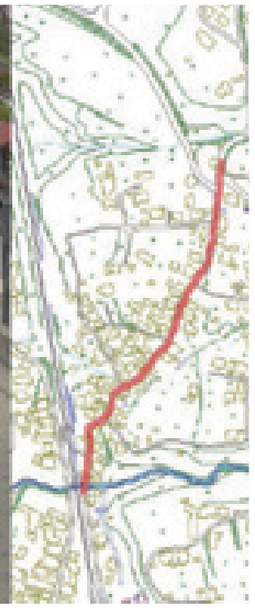
12 みんなの手すり

1 3 5 10 20
デザイン 施工

現状・提案

薮原宿から鳥居峠へと続く道は長い坂道となっており、歩きにくい場所となっている。村に住む人々やウォーキングなど散策に訪れる人々もこの道を安全に通ることができるように坂道沿いに"みんなの手すり"を設置する。

手すりのイメージ



設置場所の地図

屋外デザイン

13 石垣ベンチ

1 3 5 10 20
デザイン 実施

現状・提案

木祖村の特徴的な石垣に木の板を取り付けてベンチにすることで、憩いの場を増やす。

屋外デザイン

14 湧水あんどん

1 3 5 10 20
デザイン 実施

現状・提案

現在は暗渠となっている水路を一部開き水車を設置する。水車により水の流れが見えたり、音が聞こえたり、夜には水力発電でまちに光を灯す。あんどんで昔ながらの薮原宿風景を再現する。

屋外デザイン

15 駅前ハナモモ化計画

1 3 5 10 20
デザイン 施工・・・ 保護育成・・・

現状・提案

殺風景な駐車場が広がる薮原駅にハナモモを植えることで木祖村らしい駅前の風景をつくりだす。

屋外デザイン

16 ひとつながりの軒下

1 3 5 10 20
企画 デザイン 施工

現状・提案

過去によく見られた薮原宿の大きな軒下空間は、様々な生活のシーンを受けとめ、宿場町の景観を成していた。旧中山道の舗装も合わせて、宿場町の風景を再生する。

屋外デザイン

17 かみしばい看板

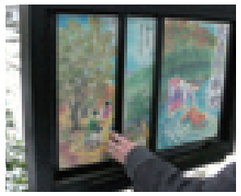
1 3 5 10 20
企画 デザイン 施工

現状・提案

木祖村にはおよそ28編もの民話がある。村の歴史や民話を紙芝居式の看板に記し村の中に点在させる。

ー物語ボックス（小布施町）ー

長野県小布施町では街頭紙芝居から町の歴史や民話などを知ることができる。



小布施町の物語ボックス

設置イメージ

設置イメージ

屋外デザイン

18 板倉を東屋に

1 3 5 10 20
企画 デザイン 施工

現状・提案

村内の使われなくなった板倉を、休憩できる東屋に活用する。

2. 景観計画策定の経過

資料編

2011年

2月24日	村から木祖村観光開発審議会に景観形成計画策定について諮問
3月22日	木祖村議会にて、一般会計景観形成関連予算提案・可決
4月6日	木祖村観光開発審議会から村に対し、『源流の里木祖村景観形成基本計画』策定に向け答申
6月20日	任期満了により、木祖村観光開発審議会委員12名を新たに委嘱 木祖村景観形成基本計画策定について今後の進め方について審議
10月7日	木祖村観光開発審議会に長野県より景観アドバイザーが派遣され、専門調査員（山田健一郎氏）が加わった中で、基本計画策定作業が始まる。この日に村内踏査実施
11月1日	木祖村観光開発審議会にて、景観アドバイザーから見た木祖村の現状と今後の策定作業の進め方について、現地踏査の結果を踏まえ審議

2012年

1月12日	観光開発審議会にて景観計画作業の為のワークショップについて具体的な進め方について審議 ワークショップを3つの部会で審議することを決定 ①居住空間から景観を考えよう ②産業と景観 ③歴史文化を活かす景観づくり
1月26日	ワークショップ村民参加募集チラシ発行
3月26日	木祖村観光開発審議会景観計画策定専門調査員委嘱 木祖村景観形成基本計画策定ワークショップ第1回全体会議 ワークショップメンバー構成決定 ・第1回第1部会ワークショップ開催 ・第1回第2部会ワークショップ開催 ・第1回第3部会ワークショップ開催
4月16日	・第2回第1部会ワークショップ開催:村内踏査実施、アンケート検討
4月17日	・第2回第2部会ワークショップ開催:委員意見交換、アンケート調査内容検討
5月8日	・第3回第1部会ワークショップ開催:踏査結果まとめ、アンケート内容検討
5月28日	・第3回第2部会ワークショップ開催:森林、山、川の維持管理について、アンケート検討

6月26日	木祖村景観形成基本計画策定ワークショップ第2回全体会議 この日より信州大学工学部寺内研究室が計画策定に加わる ・第4回第1部会ワークショップ開催:村民アンケート中間報告、模造紙に意見振り分け ・第4回第2部会ワークショップ開催:村民アンケート中間報告、構造物について審議 ・第2回第3部会ワークショップ開催:村民アンケート中間報告、地域別に意見交換
7月18日	・第5回第2部会ワークショップ開催:村内現地視察、カメラスポット視察
7月19日	・第5回第1部会ワークショップ開催:村民アンケート最終報告、インデックス仕分け
8月6日	・第3回第3部会ワークショップ開催:村民アンケート最終報告、菅、吉田地区意見交換
8月27日	・第4回第3部会ワークショップ開催:菅、吉田地区現地踏査
8月30日	・第5回第3部会ワークショップ開催:鳥居峠、小木曽地区現地踏査
9月18日	・第6回第2部会ワークショップ開催:現地踏査のまとめ
9月20日	・第6回第3部会ワークショップ開催:現地踏査及び部会まとめ
9月24日	・第7回第2部会ワークショップ開催:部会まとめ
10月10日	木祖村景観形成基本計画策定ワークショップ第3回全体会議・各部会よりワークショップ開催状況報告 ・信州大学工学部、景観アドバイザー意見交換
11月1日	木祖村景観形成基本計画策定ワークショップ第4回全体会議 ・ワークショップから生み出されたコンセプトと至った理由審議
12月6日	木祖村景観形成基本計画策定ワークショップ第5回全体会議 ・基本計画の構成とコンセプトについて審議

2013年

1月10日	木祖村景観形成基本計画策定ワークショップ第6回全体会議 ・基本計画の構成とコンセプトについて審議
2月28日	木祖村景観形成基本計画策定ワークショップ第7回全体会議 ・「源流の里木祖村景観計画」案について

資料編

3. 景観計画策定専門部会、ヒアリング協力者、写真提供協力者など

（敬称略）

1）木祖村観光開発審議会　景観計画策定専門部会

審議会　会　長　澤頭修自
審議会　副会長　岩原大輔

第1部会 居住空間から景観を考えよう	第2部会 産業と景観	第3部会 歴史文化を活かす景観づくり
会長　岩原大輔	会長　草刈成雄	会長　阿部　弘
委員　西野寛樹	委員　高木　勇	委員　澤頭修自
委員　水資源機構味噌川ダム管理所	委員　川口　勝	委員　星　梓
委員　笹川義男	委員　原恵美子	委員　柳川浩司
委員　奥原史典	委員　平井康則	委員　原　悦子
委員　降旗幸雄	委員　湯川尚子	委員　篠原公男
委員　東　大平	委員　山田陽一	委員　水本崇徳
委員　梅田結衣	委員　渡辺　孝	書記　高柳政次
書記　永島博之	書記　奥原佑介	

2）景観アドバイザー　山田健一郎

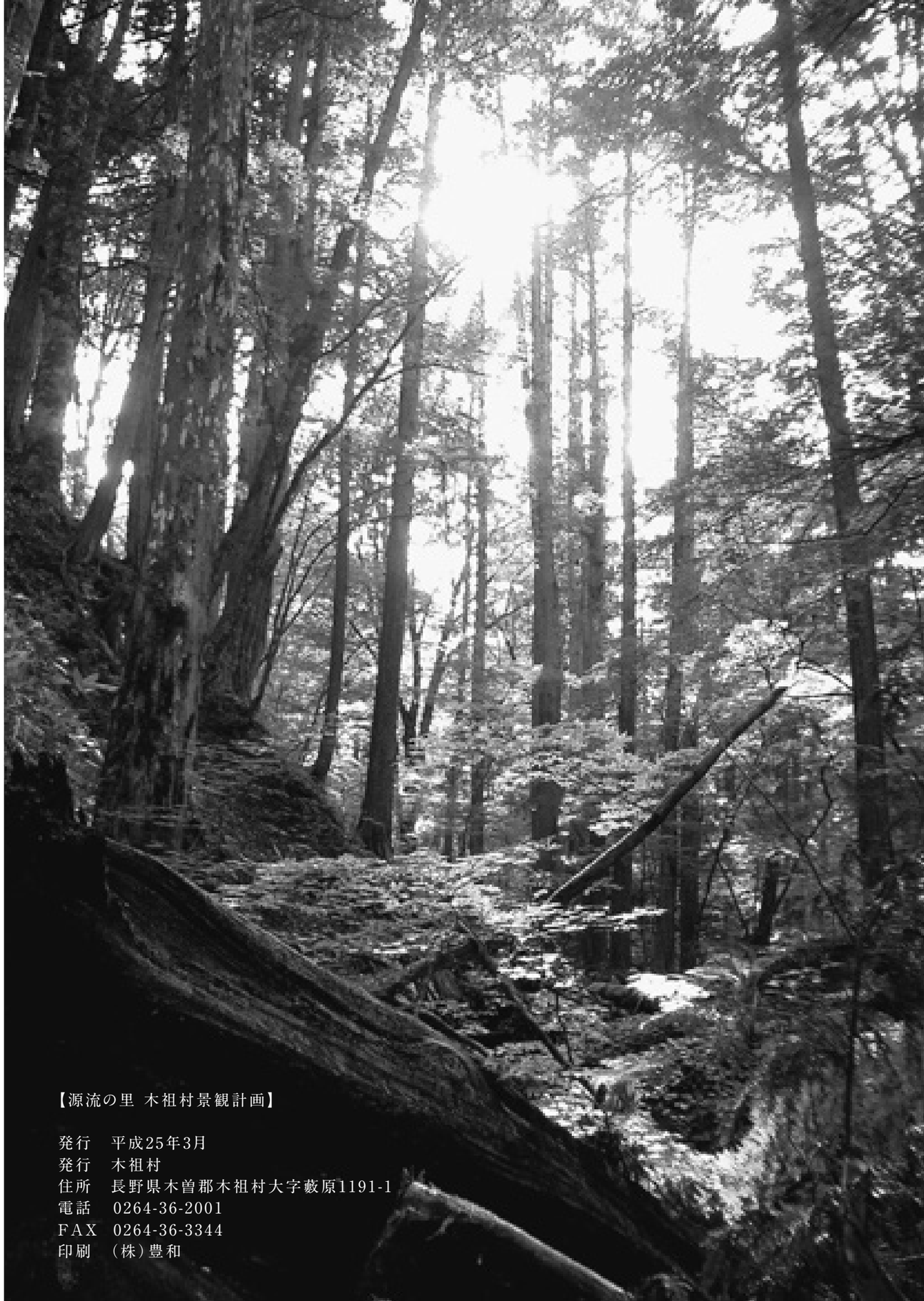
3）景観計画策定業務（調査・分析・提案等）受託者
信州大学　寺内研究室　寺内美紀子
南　勇次　山本十雄馬　高橋拓生　野原麻由　今城絵美子　京谷奈津希

4）ヒアリング協力者

NPO法人　木曽川水の始発駅	理事長	澤頭修自
木祖村商工会	経営指導員	山口一幸
きさらぎの里景観環境形成委員会	代表	栗屋正一 平井康則
木祖村お六櫛保存会	会長	北川　聰
花咲く村づくりの会	代表	高木　勇
藪原宿住人		深澤衿子 川口隆夫 唐澤達夫
藪原祭り保存会	会長	牛丸恒明

5）調査協力者　武居孝男　三澤　積　木曽 おぎのや　原百合子　湯川酒造店　篠原公男　篠原勝夫

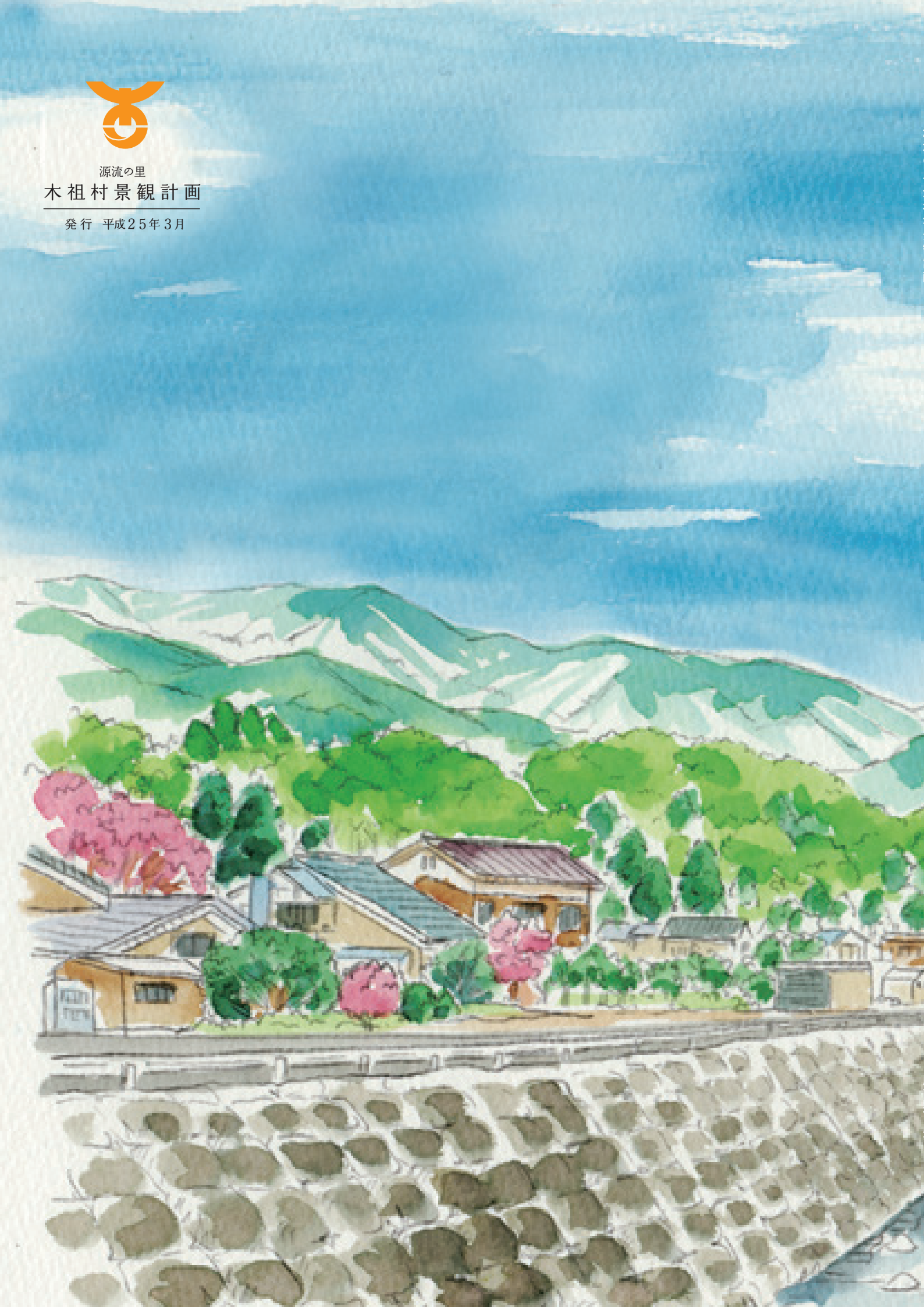
6）写真提供協力者　小林秀樹　澤頭修自



【源流の里 木祖村景観計画】

発行　平成25年3月
発行　木祖村
住所　長野県木曽郡木祖村大字藪原1191-1
電話　0264-36-2001
FAX　0264-36-3344
印刷　（株）豊和

源流の里

木祖村景観計画

発行　平成２５年３月